

22期学年通信

第17号

大阪府立今宮高等学校 2学年通信

〒556-0013 大阪市浪速区戎本町2-7-39

☎ 06(6641)2612

FAX 06(6645)7608

HP <http://www.osaka-c.ed.jp/imamiya/>

次は君たちだ！

～17日・進路説明会～

1月17日(木)67限には、進路別の説明会があります。各分野の専門の方からの説明があります。真剣に話を聴いて自分の進路に役立ててほしいものです。

～27日・マーク模試～

先輩の21期生たちが、センター試験を受験する時がやってきました。いよいよ私たち22期生の番がやって来ます。センター試験のチャレンジをする人もいます。また、27日(日)にマーク模試を団体受験します。

セミナーに参加したり、平日の講習に参加してきた人もいます。気合の入っている人も、そうでない人も、模試を仕方なく受験するのではなく、2年生の今、自分にどれだけの力があるのか、自分の学力の何を補わないといけないのかを知るといって覚悟で積極的に受験しに行きましょう！

～ウインターセミナーを終えて～

12月に行なわれた「ウインターセミナー」は、災害のため、日程が1日後ろにずれこんだにも関わらず、のべ58人の人が参加しました。受験勉強を少しでも早くスタートさせたい人、冬休みの宿題を少しでも多く終わらせたい人など、目標はさまざまでしたが、それぞれに得るものはあったようです。

(文責 青木徳子)

12/26、27実施
ウインターセミナーの感想

< ウィンターセミナーで得たこと >

受験を意識した生徒からの感想

- ・講習では英語のどこから勉強すればいいのかを学んだ。
- ・今から勉強することの大切さ。
- ・英語の勉強の仕方と世界史の受験について、詳しく知ることが出来た。
- ・集中して勉強できた。現代文の講習は毎週受けさせていただいているので同じ感覚だったけれど、地理講習は初めてだったので楽しかったです。
- ・講習でやった問題が難しいと思ったので、まだまだだな、と思いました。
- ・自らの語彙の無さに気づけたこと。一文目の抽象内容に疑問を持つということ。
- ・学校の講習が思ったより内容が濃くて、とても受験のためになったと思います。
- ・日本史の勉強の仕方が少し分かった。(複数)
- ・開講式の話や冊子(0学期に向けての「今」をまとめたもの。他の人にも配布済み)を見て、勉強しなければいけないと危機感を感じることが出来た。

自習を中心に取り組んだ生徒からの感想

- ・宿題は多いなと感じることが多かったけど、集中してやれば意外に早く終わるものもあって、短い時間で集中する力がついた。
- ・時間の使い方を学んだ。
- ・長時間集中できた。
- ・宿題を早く終わらせられた。

< 反省点 >

- ・少し私語をする生徒がいて迷惑だった。←お互いに注意しあいましょう。
- ・室温が低く寒かった。←申し訳ありませんでした。調整不十分だったようです。

< 後輩の今高生に向けてアドバイス >

- ・自習の場はみんな静かに勉強していて机を広く使うことが出来て集中しやすいので、積極的に参加して行ってほしい。
- ・自分は冬休みの宿題を減らすことが出来たし、静かでみんなが勉強しているから、集中できると思うから参加するとよいと思いました。
- ・細かい目標を立てる。
- ・講習は行った方がいい。(複数)

～～ 行事予定 ～*～*

1月

17日	木	67限 進路説明会
21日	月	7限 金1
24日	木	6限 個人写真 7限 大学入試書式
25日	金	金123、月1234
26日	土	2年生保護者説明会
27日	日	2年生河合マーク模試
28日	月	7限 金2
31日	木	6限 プレ課題研究 7限 進路アンケート 今高生の主張 校正

2月

4日	月	7限 火5
7日	木	67限 スピーチコンテスト
11日	月	建国記念の日
18日	月	7限 金3
20日	水	テスト前日午前授業 水567月6
21日	木	学年末考査(~27日)
27日	水	考査最終日 大清掃 卒業式予行
28日	木	卒業式

3月

6日	水	テスト返却日 大清掃
20日	水	終業式 大清掃
21日	木	春分の日
22日	金	新2・3年教科書販売

1月10日(木)実施 人権講演を聴いた感想

今までに何度か白い杖をついている人を見かけたことがあって、私が見た人は付き添いで他に人がいたので助けに行ったことはありません。目の見えない人が1人でいたときに、どうやって声をかけて、どんなお手伝いをしたらいいのかわからなかったけれど、お話を聞いて、実際にお手伝いの仕方を見てよく分かったので、もし今後白い杖をついて1人でいる人を見かけても不安なく声をかけてお手伝いできそうだなと思いました。

私は小さいときから点字に興味があって、全く読めないのに点字の絵本を触って読んだりしていて、来年点字の授業をとったので、やっと勉強ができるのだなとすごく楽しみにしています。目が見えないということが実際に経験できなくて、想像しきれないし、分からないことが多かったけれど、今日はいろんなことを知れて良かったです。

2年1組 O さん

まず、目が見えない状況は決して真っ暗(目を閉じている時)ではないことが分かった。景色や色が見ることができないだけでなく、光の明暗までも分からない、感覚がないと分かった。

私たちが普段利用しているものや施設などには、自分が気づいていなかっただけで、沢山の工夫があると知った。その中でも、電車のホームアナウンスや発車ベルが1番線、2番線、方向によって違うことに感動した。歩道の音響は夜には流れないことにびっくりした。デンマーク ver.はとてもいいアイデアだと思った。狭い道や階段での正しい合図の仕方を知れて良かった。

三上さんが28歳のときに日本中を旅して終わったときに、“日本語さえ喋ることができればどこでも生きていける自信になった”と書いていらして、自信に変えられることに素敵だなと感じた。

最後に仰っていた「不幸」ではなく“不便”。手助けしてくれると“不便”が“便利”になる。」という言葉をお忘れずに過ごそうと思う。

2年2組 S さん

最近僕は目が見えない人はどんな生活をしているのだろうと考えていたので、今回の講話はとても勉強になりました。まず目が見えないことはつらいと思っていたことが全くの誤解だと分かりました。不幸ではなく不便であるという言葉はすごく印象に残りました。普段生活していて全く気づかなかった地下鉄のメロディや点字、信号の音など、日本では身体に障害がある人にとって、助けとなるものがたくさんあるのだとわかりました。それと同時に、もっと他の部分で困っていることはないのだろうかという疑問も生まれました。例えば一人で御風呂に入れるのだろうか、一人で料理ができるのだろうか、一人で出かけたたりできるのだろうか。もしこのようなことで困っているのなら、僕達は何ができるのだろうか。ユニバーサルデザインのような商品を作る人は、障害を持っている人が本当に困っていることがわからないと思うので、このような製品を作るときには障害のある人にも協力してもらいたいと思います。

以前駅のホームで「目が見えません」と言っている人がいましたが、僕は何もできませんでした。もしこのような機会があったら、行動できるようにしたいです。

2年3組 Y さん

「目が見えない」ということを感じさせないくらい明るくて楽しそうに思われていたと思います、日本縦断されたり、退職されても学校で教えていたり、凄く生き活きと生きているなあと感じました。

世間から見たら目の見えない人は「可哀想」とか「不幸」と思われているけれど、全くそんなことは無いんだなと三上さんを見て思いました。むしろ私たちよりも色々な経験をして、色々なチャレンジをして、もっと多彩な中で生きていらっしやるのではないかと思います。

電車や道中で声を掛けるのは凄く勇気がいらいます。けれど気楽に聞いてみたら良いんだと思いました。振られたら振られたで「お気をつけて」と言えば良いし、役に立てるならもっと良いことです。確かに不安だけれど、声の掛け方や誘導の仕方も覚えたので、次から頑張ってみようと思えました。

スクランブル交差点で目の見えていない人からしたら不便なんですね。知らなかったです。便利と思っている人がいる反面、そうでない人もいることに気づかされました。

2年4組 I さん

盲目の方は電車や道を歩いていたときに見かけたことがあるだけで、実際に話を聞くというのは初めての体験でした。私はまず三上さんの人格に驚いてしまいました。とても陽気で明るい方だったからです。たった六歳で両目を失明されたそうですが、それでも強く生きておられるのだなと感じました。きっと私はどこかで「盲目の人」を穏やかな人と決め付け、偏見を持っていたのだと思います。そして目が見えないから可哀想と思うことは、盲目の人に対して失礼に値するのではないかと考えました。もちろん両目が見える私たちよりは不自由な暮らしを送っていられますが、懸命に生きておられます。マイナスの発言などされておらず、話しているときも楽しそうでした。だから私はこの何不自由のない健康な体に改めて感謝し、小さなことでグダグダしないで前を向いて生きていこうと考えさせられました。

2年5組 A さん

僕は今回の話を聞いて、障害を持っている人は「不幸」という考えが無くなった。三上先生は話している最中の生徒の表情がわからないはずなのに、皆が笑えるような事をたくさんおっしゃって、少しでも自分の大切なことを伝えようとしていたのが伝わってきた。ずっと「不幸」と考えていたけど、先生の陽気な話し方や初めて会う生徒との接し方を見て、そんなことなさそうだなと感じた。先生が実技演習のようなことをしていたから視覚障害の人への対応がわかりやすかった。

先生がおっしゃっていた「席は別に譲らなくても良いが、空いている席は教えて欲しい」が全国の視覚障害を持っている人全員が思っていることだろうととても大切なこととして頭の中に入れておこうと思った。

最後におっしゃっていた「障害者は“不幸”ではなく、“不便”なだけである」という言葉で僕の考えは変化し、「不幸だな」と感じることはもうやめようと思った。とてもいい体験だったのでこれからの役に立てていきたい。

2年6組 H さん